

第2回第七採択地区教科用図書採択協議会

議事録

期 日 令和6年7月23日（火）

場 所 鴻巣市役所本庁舎3回 302・303会議室

開 会 9時00分

閉 会 12時00分

令和6年度 第七採択地区教科用図書採択協議会会長 齊藤 隆志

委 員 桶川市教育委員会 岩田 泉 教育長 青木 健志 委員

伊奈町教育委員会 高瀬 浩 教育長 三國 隆夫 委員

北本市教育委員会 神子 修一 教育長 黒川 範子 委員

鴻巣市教育委員会 齊藤 隆志 教育長 加藤 幸弘 委員

事務局 鴻巣市教育委員会学校支援課長 杉山 賢次

鴻巣市教育委員会学校支援課指導主事 松本 学

1 開 会

2 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会会長（鴻巣市教育委員会教育長）

3 日程等の確認及び説明

（事務局）日程等の説明

4 調査報告・質疑

（事務局）協議に入る。ここからは齊藤会長に議長をお願いする。

（議長）それでは、協議に入る。

（議長）傍聴人は第七採択地区教科用図書採択協議会傍聴人規約に基づき、傍聴願う。それでは、協議に入る前に、選定の流れについて事務局に説明願う。

（事務局）選定の流れについて確認する。

協議終了後、教科用図書選定の時間において、協議の内容から委員の皆様のご意見により決定していく。委員全員の意見が一致したときには、その図書を第七採択地区の採択案として選定する。一致しなかった場合、規約第13条により、投票となる。投票の場合は規約第13条の2項により、過半数を得た教科用図書を採択案として選定する。また、規約第13条の3項により、過半数を得ない場合は、得票数の多い順から2種類の教科用図書について投票を行い、多数を得たものを選定とする。規約第13条の4項において、得票数が同じ場合、選定前の協議経過を勘案して会長が決するとなっている。選定の流れについては以上。

(1) 調査員による調査研究結果の報告・協議・選定

(議長) 調査員による調査研究結果の報告に入る。

①国語

(議長) 国語の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、国語4発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 小中接続について意識したものが、教育出版に見られるという報告があったが、他の3社については、小中接続の部分について何か工夫点や特徴的な部分はあるのか。

(調査員代表) 各社とも1年生の段階では、小学校の学習を意識した教材を配置している。例えば、東京書籍であれば「言葉の力」、三省堂であれば「学びの道しるべ」、光村図書であれば「学びの扉」、こういったものがそれにあたる。

(議長) 他に質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 B) 第1案は光村図書。読みやすく、実践しやすい内容が多い。「学びの扉」で見通し、「学びの鍵」でより深い学びがある。言語活動の充実を図るため系統的に課題が設定されている。複数の知識や技能を身へ結びつけ多面的、総合的に国語の力を伸ばす工夫がなされている。第2案は三省堂。思考の方法がよい。文法のまとめや言葉発見で比喻など各単元のデータの資

料が充実している。第3案は東京書籍。単元が終わると次のページの色が変わっており、わかりやすい動画やコラム、写真等の資料が充実している。テーマに対して学習者が交流しやすいような工夫がされている。

(委員 C) 第1案は光村図書。「思考の地図」というところで、課題を解決するための様々な思考方法を紹介している、また、「言葉に出会うために」というところで、声を届ける音読発表、書き留める記録ノート、調べる辞書、続けてみよう言葉の手帳等、行き届いている。国語便覧のような役割も果たしている。「教科書を教える」ではなく「教科書で学ぶ」という観点からすると、文学的文章や説明的文章の読み方についても充実している。総合的に見て使いやすい。第2案は東京書籍。学習と日常生活を繋ぐ意識を高められるように工夫されている。学習内容を明確にするとともに、系統的に学ぶことができるようになっている。領域ごとに色分けがなされているために、非常に見やすい。「さんきち」等の心温まるようなそういった作品が載せられている点もよい。第3案は三省堂。思考のチャートが非常にわかりやすい。「学びの道しるべ」「語彙を豊かに」というところも評価できる。

(委員 D) 第1案は光村図書。生徒が問いを持ち、課題を解決していけるように、学習の流れを示す「学びの鍵」や「学びの扉」がわかりやすく充実している。特に「学びの扉」では深い学びにつながり、対話を深めていく重要な要素となっている点が評価できる。また、読書の単元が2つ設定されており、テーマ別で読み比べを取り入れたり、本の中に中学生を主人公にした作品を取り上げたりして、本を読みたくなる読書のきっかけ作りが大変上手に工夫されている。さらに、言語感覚を豊かにする工夫として、各学年の巻末に「語彙ブック」があり、そのときの自分の気持ちにぴったり当てはま

るような表現を探したり、読解の読み取りを深めたりする際などには大変有効である。QRコードからの内容も、スピーチや話合いの動画があったり、作者のインタビューの動画があったりして、生徒の関心意欲を高める工夫がある。第2案は東京書籍。全体的に問題解決的な言語活動が設けられており、生徒同士で協働して学びが深められる工夫がある。豊富な図やイラストを用いて生徒の興味を引き出しながら、学習が展開できるよう工夫されている。「言葉の力」が学習内容と関連付けて設けられており、内容が図解してあるので大変理解しやすい。また、巻末には「言葉の力」の一覧もあり、系統的に学べるような工夫がされている。第3案は教育出版。各教材の初めに目標とともに「学びナビ」が提示されており、何を学ぶのか、どのように学ぶのかなどの目的意識を持って学習に取り組めるような工夫がされている。スモールステップを踏んだ展開になっており、学年に応じた教材配置もされている。

(委員 E) 第1案は光村図書。「学びへの扉」は学習の流れが明確に示され、課題解決のための資質・能力を「学びの鍵」として、両者を見開き設定することで、生徒自身の振り返りを学習過程、資質能力の両面から行いやすい工夫がされている。第2案は東京書籍。教材ごとに手引きを配置し、見通す、つかむ、読み深める、考えをもつ、振り返る、という具体的な学習過程と「言葉の力」を掲載し、「言葉の力」が一覧表等を用いて、系統立てて学べるという工夫がされている。第3案は教育出版。「言葉の地図」では、教科書を使った学び方が示され、「学びナビ」を教材本文前に配置し、当該教材で何を学ぶのか、どのように学ぶのかを明示し、生徒の主体的な学びを支援する工夫がされている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) 選定に移る。国語については、光村図書を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 国語は光村図書を選定する。

②書写

(議長) 書写の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、書写4発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案は光村図書。別冊の練習帳がよい。手紙の書き方も実用的なところが多く、3年間の目標や、振り返りがあってよい。「自分らしい文字」というところでは、いろいろな作者の文字が並んでおり、自分らしさや味がある文字という部分が出ていたのがよい。QRコードでアニメーション動画があって面白い。書き方で、「トン、スー、トン」と擬音で表しているのもよい。硬筆と毛筆の連携を図るための工夫がなされている。日常に役立つ組織や国語科と連携した日常生活との関わりが多彩な形で示されている。第2案は東京書籍。「書写のかぎ」というところでポイントがつかめることと、手書き文字と活字文字の違いがはっきり出ていてよい。書写テストで確かめができること、実用的でSDGsやバリアフリーについても

触れられているのがよい。毛筆の書き方で「トン、スー、ピタ」と表しており子供たちが遊び心をもって書ける。コラム、補足資料があってよい。第3案は三省堂。行書と楷書が何回も出てきてわかりやすく、二次元コードの一覧があったのもよい。実用的であり、手書きと活字の違いもわかってよい。学んだことが実際に活用できるか確認し、自らの言葉で記述できるように工夫されている。

(委員 B) 第1案は光村図書。硬筆課題に取り組める「書写ブック」がついているところ、そして取り外し可能で、毛筆と硬筆の関連が図れるように工夫されているところが評価できる。また、巻末に多様な資料がついているところや手本が原寸大でサイズで表示されているのもよい。さらに、国語の教科書と連動した教材が掲載されている点もよい。片付けの仕方なども丁寧に示されており、筆の洗い方など細かいところまで配慮がなされている。第2案は東京書籍。見開きの右ページに目標や学習のポイント、左ページに基本を配置して、見やすいレイアウトになっている。第3案は三省堂。巻末の資料編では、楷書と行書を比較できるようレイアウトを工夫している。各教材が見開きで構成されていて、書き方のポイントや学習内容が一覧で示されている点もよい。

(委員 C) 第1案は光村図書。一貫した構成で、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組める工夫がされている。取り外せる書写ブックがあり、毛筆で学んだ基本の点、角などを硬筆でいかせるよう関連をさせて、書く力を身につけられるように工夫されている。また、筆圧や筆の入り、「トン、スー、トン」等の筆遣いの工夫があってわかりやすい。学びが生活と結びつくような工夫があり、生徒や教師も書写を学ぶ意義を共に再確認できる。

「学びのカギ」で大切なポイントが示されていたり、1年生では特に原寸

大の教材が充実していたり、左利きの生徒への配慮があったり、苦手意識を和らげるような題材があるなど、優れた点が多くある。第2案は東京書籍。

「見つけよう」「確かめよう」「いかそう」から構成されており、生徒が主体的に学べるように、「書写のカギ」で示しているところがよい。また、書体の比較を指でなぞって考えさせたりしている点が工夫されている。「書写ブック」が端末にあって、様々な書式、ノートの取り方、レポートの書き方などがあって大変参考になる。特に4社の中でも文字も太く大きく見やすく、見やすい。第3案は教育出版。どの教材も授業の始めに試し書きで自分の課題に気付いて、授業の終わりにまとめ書きで振り返り、書く力を身につけるような構成がされている。また、点、角の種類、筆圧、穂先の向き等、わかりやすい。

(委員 D) 第1案は光村図書出版。「考えよう」「確かめよう」「いかそう」の学習の流れで構成されており、生徒が見通しを立てて主体的に学習に取り組めるように工夫されている。第2案は東京書籍。繰り返し確かめ、学びの定着が図れるよう行書の特徴の動きのパターン化を行い、行書のまとめや書写テストなどが配置されている。第3案は教育出版。授業の初めに確かめ書きを行い、自分の課題に気付かせ、授業の終わりにまとめ書きで振り返ることで、学びの自覚と書く力を身につけられるよう工夫されている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) 選定に移る。書写については、光村図書を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 書写は光村図書を選定する。

③音楽一般

(議長) 音楽一般の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、音楽一般2発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) ねらい、音楽を形作っている要素、何を課題としていくか等細かく示されているものと、細くないがねらいが示されているもの、子供たちが主体的に学習を進める上では、現場の先生方あるいは現場の子供たちにとって、どちらがよいか。

(調査員代表) どちらがということは調査委員会の中では特には話題にはあがらなかった。まず、巻頭の学習内容を一覧で示してあり、子供たちがこれをどのように扱ったらいいのかという長い見通しをもって主体的に学習できるような工夫が各社でされていることは話題になった。

(委員 A) どちらもワークシートが示されているが音楽の授業を進めるにあたってワークシートの効果、必要性について何か話題になったか。

(調査員代表) どちらの教科書も充実している。内容的には、生徒同士がお互いに感じたことを話し合う場面などが設定されており、それを記載するような工夫があった。また話し合った内容から自分がどのような表現をしていったらいいのか、つなぎにあたるようなワークシートも見られた。

(委員 A) どちらの方が使いやすいかは特に話題にはなったか。

(調査員代表) どちらが使いやすいということは話題にはならなかった。ただ、知覚感受と表現についての相互作用がされるという部分では、教育芸術社の方が知覚と感受の受け答え、つまり、子供が知識をどうとらえ、どう生かしていくかという部分の往来という部分について工夫が見られるという話題はあが

った。

(委員 B) QRコードについて、指導者側から見て有効と思われるものはどちらの方が多かったか。

(調査員代表) 実際に子供たちが音を聞けるということは、どちらも大変有効なものが載っているという見解が出された。一例をあげると、「越天楽」という曲が教科書に載っているが、一社は箏箏という楽器の唱歌と演奏だけが載っていて、もう一社は、箏箏や釣り太鼓などのそれぞれの弦楽で使用されている楽器一つ一つについて音と唱歌も載っているというような差異があった。

(委員 B) 後者の会社はどちらか。

(調査員代表) 教育芸術社である。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 C) 第1案は教育芸術社。楽譜が大きくて見やすい。鑑賞曲のQRコードを読み込むと、曲の全体を聞くことができる工夫が見られた。音楽が苦手な子でも親しみやすい。また、歴史的な背景を含めた地図が載っているなど、作者の歴史的な背景も書かれている点がよい。第2案は教育出版。冒頭に著名な人物の音楽との触れ合いが掲載されており、興味を引く構成となっている。鮮やかな写真、学びリンク、ワンポイントアドバイス、補充活動の一連の流れで授業を進められるようになっている。

(委員 D) 第1案は教育芸術社。歌唱では声の出る仕組みや変声期についての説明などから、自分の歌声を見つけることができるような工夫がされている。鑑

賞教材の数が、他社と比較して多い。二次元コードの数も種類が多様でページのレイアウトに統一感があって見やすい。音楽を形づくっている要素がわかりやすく示されている。各ページの左下に音楽を形づくっている要素を明確に示すことで、学習内容を捉えやすくしている。教育委員の意見では、教育芸術社の表紙がよいというものもあった。音楽って素晴らしい、楽しいということが、巻頭からわかるような仕組みができていているという指摘があった。第2案は教育出版。表現のポイントが示されていて系統的に歌唱を学ぶ工夫がされている。各ページの見出しが色分けされてははっきりと表記されている。学習マップや学習の進め方の表記があることで見通しをもって主体的に学習に取り組むことができる工夫をしている。教育委員からは、表紙と比べると少しいんパクトが弱いという意見があった。

(委員 A) 第1案は教育芸術社。目次は両者とも同じような構成だが、学習内容が整理され示されている。歌唱、創作、鑑賞の順にまとめられていて、目標3観点とも関わらせながらそれを整理されている。1教材の中の教科書作りを見たときに、生徒が目標をもって主体的に学べるような構成になっている。例えば、テーマ・ねらいの下に音楽を形づくっている様子が示されている。そして、曲名の下にねらいがしっかり書かれている。イラストの中に音楽的な見方・考え方を働かせて学習するために考えさせたいポイントが例示されている。生徒が目標をもって主体的に学べる構成である。

その他、「学びのコンパス」で学び方を示しつつ、ワークシートなどを含め、非常に使いやすい。子供たちが音楽的な内容、その教材の内容を考えながら書き込んだり考えたりしながらできる。指揮についてもしっかり書かれている。1年生の「音楽入門」がわかりやすくまとめられている。著

作権の扱いもされている。振り返りにについても示されていた。鑑賞もよい。第2案は教育出版。「学習マップ」が示されており、歌唱、鑑賞、創作の順で示されている。1教材の構成は大きなねらいはあるが要素は書かれていない。曲名の下にねらいはあるが主体的・対話的なあるいは音楽的な見方・考え方の点からの示し方が弱い。しかし、コンピュータを使った創作についてはよい。

(委員 E) 第1案は教育芸術社。各教材には問いかけがあり、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組む工夫がされている。何を学ぶのか、具体的にどのような活動をするのかを提示することで、音楽科における3つの資質能力の確実な育成につながっている。第2案は教育出版。「学習マップ」には、育成を目指す資質・能力と教材名や領域分野の相互のつながりが明記されており、各ページにも同様な内容が反映されている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) 選定に移る。音楽一般については、教育芸術社を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 音楽一般は教育芸術社を選定する。

④音楽器楽

(議長) 音楽器楽の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、音楽器楽2発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 一方の教科書で、巻頭に楽器ごとにその楽器の演奏を聞こうというのがあるが、ここに示されているような音源は、聞かせられるものなのか。

(調査員代表) 実際に聞くことができるようになっている。。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 B) 第1案は教育芸術社。楽譜の見やすさという点大きい。様々なジャンルの音楽が掲載されており個人での練習もしやすい。全てのページにQRコードが掲載されており、情報量が多い。リコーダーのアーティキュレーションがより詳しく説明されていたのがよい。第2案は教育出版。篠笛についてと太鼓の様々な叩き方が載っていてよい。詳細な写真から無理なく身につく演奏の仕方、多彩な合奏教材の一連の流れで授業を進められるようになっている。

(委員 C) 第1案は教育芸術社。目次とは別に学習内容が示されたページがあり、見通しをもって主体的に学習に取り組むようにできている。リコーダーの運指表やコード表等が見開きで示されていて見やすい。音符・記号などの解説がしっかりとされている。各ページの右下に二次元コードと、その動画の内容が簡潔に掲載されており、学習の個性化に対応している。第2案は教育出版。楽器の構造や考え方等が写真でわかりやすく示されている。明るい色調でユニバーサルデザインフォントを使用して見やすい。難易度を示していて、主体的に協働的に学習が進められるように工夫をされている。表紙については、二社比較すると教育芸術社の方が親しみやすい。

(委員 A) 第1案は教育芸術社。音楽一般と同じ教科書を使った場合は使いやすい。

楽器を使った演奏を聞くことからスタートすると子供たちは関心・目的意識が高まる。一番最初にどれもその楽器を演奏している写真が載っているが、背景の色も含めて、楽器と演奏者が引き立つような写真の取り方や載せ方がされている。その他「学びのコンパス」等楽器でメロディーなども含めて、特色あるコーナーがたくさんある。リコーダーの使用方法的説明が詳しい。指使いもわかりやすい。流行の曲、映画音楽、身近な音楽が取り入れられている。第2案は教育出版。目次の次のページが、音楽一般の方は「学習マップ」があったがこちらではないのがもったいない。やはり器楽なら器楽なりに学習のマップあるんじゃないかなと思いつつ見ていた。写真、楽器の説明があつて、姿勢と構え方、その他ポイントが示されているが、技能優先のように感じられ、意欲や目的意識をもって、主体的に学べるか疑問をもった。

(委員 D) 第1案は教育芸術社。各楽器の構造や各部の名称が、写真や図で理解しやすく掲載されている。楽器の構え方についても複数の角度から掲載され、理解を助ける説明がされている。第2案は教育出版。写真や図、さらに学習を進める上での用語等がバランスよく掲載されており、学びに集中できる配慮がされている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) 選定に移る。音楽器楽については、教育芸術社を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 音楽器楽は教育芸術社を選定する。

⑤道徳

(議長) 道徳の調査員代表よろしく願います。

(調査員代表) 報告書に基づいて、道徳7発行者について報告する。

(議長) 質問はないか。

(委員 A) 7社の教科書それぞれ特徴があると思うが、その中で「議論する」という視点で調査員の中から意見があったら教えてほしい。

(調査員代表) 3社の教科書が具体的には上がった。一つは東京書籍。ソーシャルスキルに関する教材もあり、子供たちが教材を通して学んだことを実生活に取り組めるようになっていたり、いろいろ議論が深められる内容になっていたりする。2つ目は光村図書。二次元コードを実際に開くと資料と朗読の別がわかりやすくなっている。そのため、お話を深めていきたいなというものわかりやすく載っている。3つ目は学研。考えていく視点も具体的に示されていて、授業者もその視点で授業を展開できるようになっている。

(議長) 他の質問はないか。

質問がないので、報告については終わりにする。

(議長) 協議に移る。それぞれ意見願う。

(委員 A) 第1案は学研。編集の姿勢を見たときに、表紙の次のページにフランスの作家の言葉が書かれており、自分の見方や考え方、考え方を作ってほしいというメッセージを感じた。上手にイラストを使っていて、その柔らかい感じや何か心の中のフワッとしたようなものが表現されている。写真も現実的なものを運用しているところもよい。物語も心に入ってくる感じのものが多い。話し合いながら自分のこととして多面的・多角的に考え

を深められるよう、現代的な課題について議論できる手立てが提示されている。第2案は東京書籍。いじめや情報モラルのテーマが良い。教材と関連したテーマをより深く広く考えられるように発達段階に応じた内容で、日常生活や他教科との関連等工夫をされている。第3案は日本文教出版。いじめをなくすためにというテーマで書かれている。他社の教科書では人権と絡めて書いてあるところが多いが、直球でいじめについて語りかけている点は評価できる。別冊の道徳ノートに自分の意見や話合いの内容を記入することができ、それらを通じて自らの成長を実感し、協働的な学びを積み重ねられるように工夫されている。

(委員 B) 第1案は学研。内容項目のバランスが非常によい。教材文の長さが適切である。「深めよう」では、スケール法等を用いて自分のこととして考えることができるように工夫がなされている。巻末に「未来の扉」や「学びの記録」がついており、自分自身の成長を実感できるようになっている。教材文の最初に考える視点を与えるためのリード文が記載してあるのもヒントになる。思ったことや考えたことを自由にメモできるようになっている点も使いやすい。第2案は教育出版。道徳的行為に関する体験的な学習等ができるように、ロールプレイングのページが設定されているがよい。巻末の学びを振り返るためのワークシートがついているのもよい。端末にある内容項目別の教材一覧には、他教科との関連についても記載されているのもよい。二次元コードの数は、7社の中で一番多く活用できる。第3案は東京書籍。道徳的諸価値の理解を深めるために、教材に加えて、コラム等を取り上げている点が評価できる。心情円盤がついているのもよい。教材を見て思ったこと考えたことを自由にメモできる「つぶやきメモ」がよい。自分の考えをメモすることは大切だと考える。いじめ防止や、生命の

尊さ等のテーマをユニット学習できるよう、教材配列を工夫している点も評価できた。

(委員 C) 補足として、教育出版は、身近に起こるような題材が多く取り上げられていて題材そのものもよい。東京書籍は、出典がNHKで放送されたものが多く見える。日本文教は、アンガーマネジメントのページがあってよい。あかつき出版はスマホの依存度チェックがある等、現代的な課題を扱っていてよい。

(委員 D) 第1案は学研。主体的な学びを深める工夫や考え議論する道徳を最も実現しやすい。例えば、教材の冒頭で道徳的価値は示さないで、学習への関心を引き立てるキーフレーズや文を示しているのがよい。題材末の発問も題材に関することと自己の生き方に関するものに絞っていて、議論する時間の確保が期待できる。いじめやSNSの使い方などに関して大変充実している。

情報モラルへの対応に関しても、教材を用意しているところがよい。多様性の尊重についても充実している。第2案は東京書籍。主体的な学びを深める工夫、考え議論する道徳を実現しやすい教科書である。冒頭の学習テーマや題材末の発問を2本に絞っている。また、いじめに関する題材についても大変工夫されている。2・3年生では、今活躍している人物やこれまで社会のために貢献した人物など多彩に取り上げていて、生徒の興味を引き出すような工夫もされている。第3案は日本文教出版。教材の冒頭には、道徳的価値に近いものを掲げ、内容を深める発問などが工夫されている。各学年の最初のページを使って道徳の学習をどのように進めていくか、丁寧なオリエンテーションのページが工夫されている。いじめの問題やSNSの危険性などの題材についても、充実をしている。題材末の発問「自分にプラスワン」もよ

い。

(委員 E) 第1案は学研。最重点テーマをいのちとして、内容項目「いのちの尊さ」を全学年3本ずつ配置し、さらにいじめ防止のために直接的間接的に考えられる教材が年間を通して掲載されている。第2案は東京書籍。ユニット「いじめのない世界へ」を5月に全学年設置し、いじめ問題を直接的に扱う3本の教材をもとに、多面的・多角的に考えられるようにしている。第3案は光村図書。各教材に考えようにおいて学習テーマの明示、意図を明確にした二つの発問を設定し、主体的・対話的で深い学びを実現する手引きとしている。

(議長) 他の意見はないか。

意見がないので、協議については終わりにする。

(議長) 選定に移る。道徳については、学研を採択案としてよいか。

(委員) 異議なし。

(議長) 道徳は学研を選定する。

(2) 採択用教科用図書の採択案の確認

(議長) 採択案の確認をする。

国語は光村図書出版とする。

書写は光村図書出版とする。

音楽一般は教育芸術社とする。

音楽器楽は教育芸術社とする。

道徳は学研とする。

(議長) 以上をもって議長の任を解かせていただく。事務局から連絡願う。

(事務局) この後の手続きだが、各市町に持ち帰り、各教育委員会で議決を行い、7月31日(水)までに事務局へ報告をお願いします。4市町すべてにおいて、第七採択地区案を議決し、教科用図書が採択されたことを確認できたら、速やかに各市町に連絡する。なお需要票の記入のために学校へ教科用図書名を知らせる期日については、採択が決定してからになるのでしばらくお待ちいただきたい。併せて各市町教育委員会においては、事務局からの連絡後、義務教育指導課からの文書「令和7年度使用中学校用教科用図書(各教科)採択結果の報告について」の南部教育事務所長への報告をお願いします。

5 あいさつ 第七採択地区教科用図書採択協議会副会長(伊奈町教育委員会教育長)

2日間にわたる協議に感謝する。膨大な量の研究、各市町での勉強会等も大変だったと思う。議長の進行により日程通り終わることができた。公正かつ慎重な協議により、無事に中学校用教科用図書10教科16種目の採択案を選定することができた。最終の採択に至るまでの事務を厳正かつ慎重にそして間違いなく進めていくよう願う。改めて2日間の協議に深く感謝する。

6 閉 会

(事務局) 委員の資料は、回収させていただくので机の上に置いて退室願う。